



愛知県国際展示場 コンセッション 5年間レビュー (概要版)

2025年6月
愛知県観光コンベンション局
愛知国際会議展示場株式会社

目次

1. 大規模展示場の基本構想	P 1
2. 施設の整備	P 2
3. コンセプション方式の導入	P 4
4. 各業務の分析・評価	
統括マネジメント業務	P 5
施設維持管理運営業務	P 6
附帯事業運営業務	P13
官民連携による需要創造推進業務	P14
任意事業	P15
5. 施設利用者の意識調査	P16
6. マネジメントとガバナンス	P18
7. 総括	P20

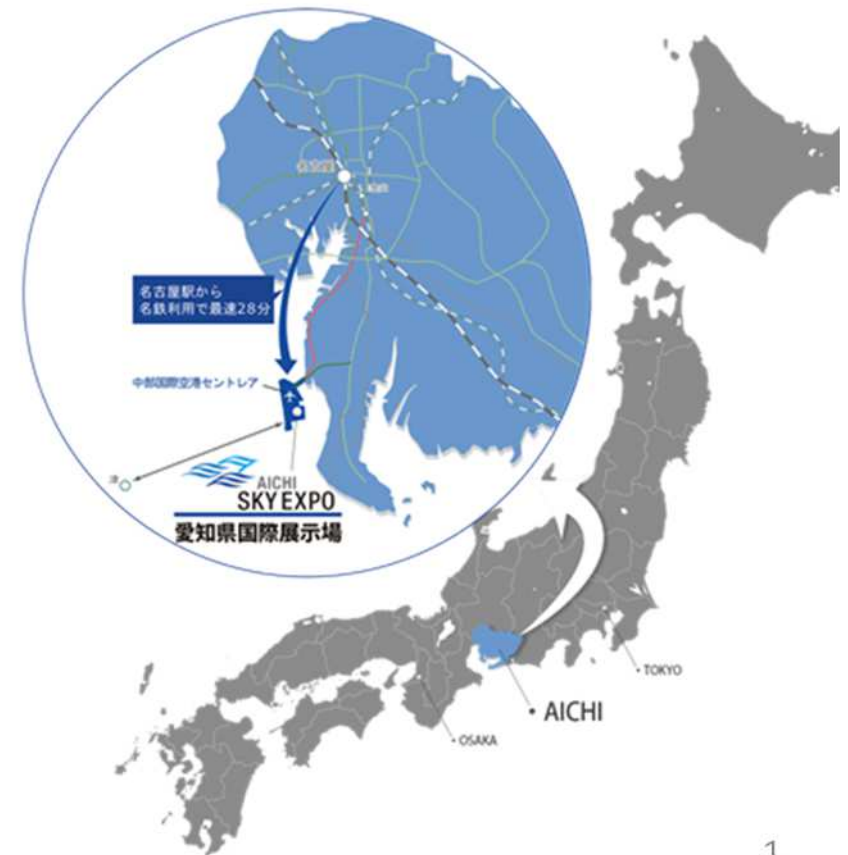
1. 大規模展示場の基本構想

- 経済発展に伴うMICE産業の成長を見込み、国内外で新たなMICE施設の整備が進む中、愛知県では、2016年2月に「大規模展示場の整備について～首都圏に並ぶ交流拠点に向けて～」を公表し、愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)の整備が決定。
- 本施設の建設地は、空港・鉄道駅が直結し、交通アクセスの利便性が高いことや、空港島内の宿泊施設など周辺施設が充実していること、建設用地の確保が容易で施設配置の自由度が高いことなどから、「知多エリア」(愛知県常滑市沖の中部国際空港島南側)とした。

【整備コンセプト】

産業首都 愛知の新たな 交流・イノベーション拠点の創造

- MICEの開催による新たなビジネスマッチングの機会を創出
- 企業や研究機関の誘致や、新たな交流によるイノベーションの創造
- セントレア周辺との相乗効果による国内外から人を呼び込む集客拠点



2. 施設の整備①

(1) 整備事業について

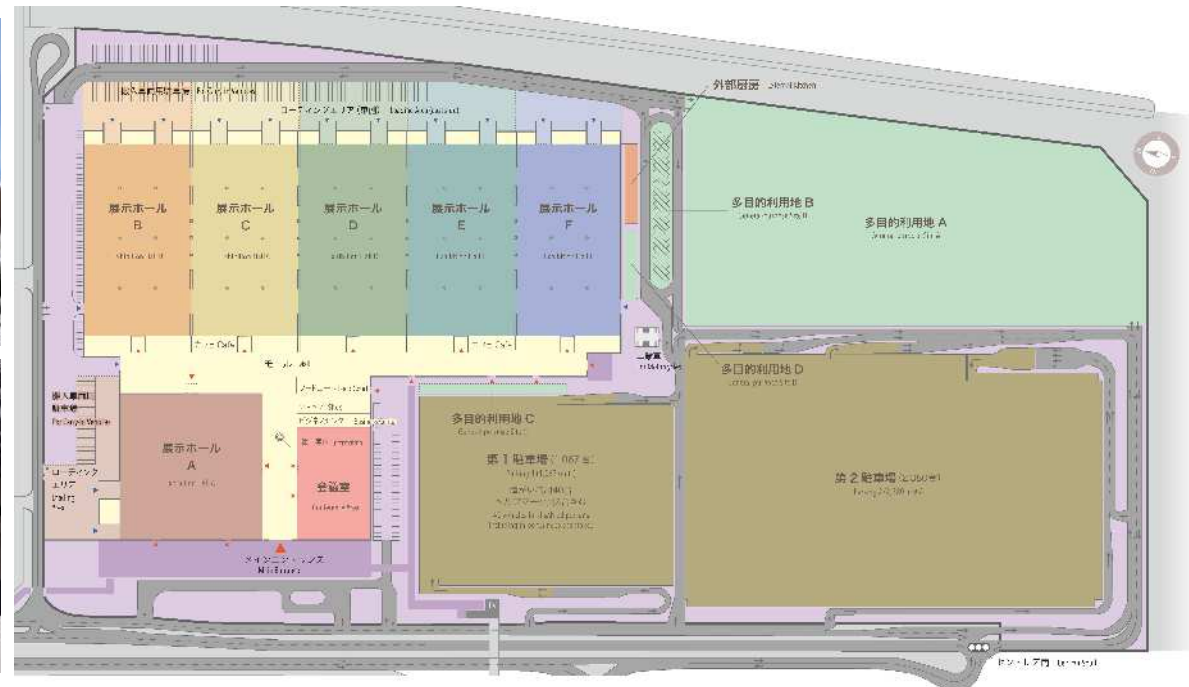
- 東京オリンピック開催に伴う需要獲得や技能五輪国際大会の本県への誘致も見据え、早期に整備を進める必要があったことから、事業期間の短縮や整備費の圧縮を狙い、DB(デザインビルド)方式(設計施工一括方式)を採用。
- 施設設計においては、環境性能やバリアフリー性を確保するとともに、海外の施設を参考に、簡素で機能的な設計とした。
- 事前調査において、「展示面積が60,000㎡であれば国内で開催されている展示会の9割をカバーすることが可能となる」との結果を得たことから、展示ホールの面積は60,000㎡を基準とした。

整備概要		スケジュール	
名称(主要用途)	愛知県国際展示場(展示場)	2016.4～7	基本計画策定・発注準備
敷地面積	280,265㎡	2016.8.6	入札公告
建築面積・延床面積	88,643.40㎡・89,693.38㎡	2016.9～10	事業者選定
構造・階数	S造・地上2階	2016.10.17	落札者の決定
総事業費	342億5,009万円	2016.10～2019.7	基本実施設計・工事施工
施工事業者	株式会社竹中工務店	2019.8.30	供用開始

2. 施設の整備②

(2)施設について

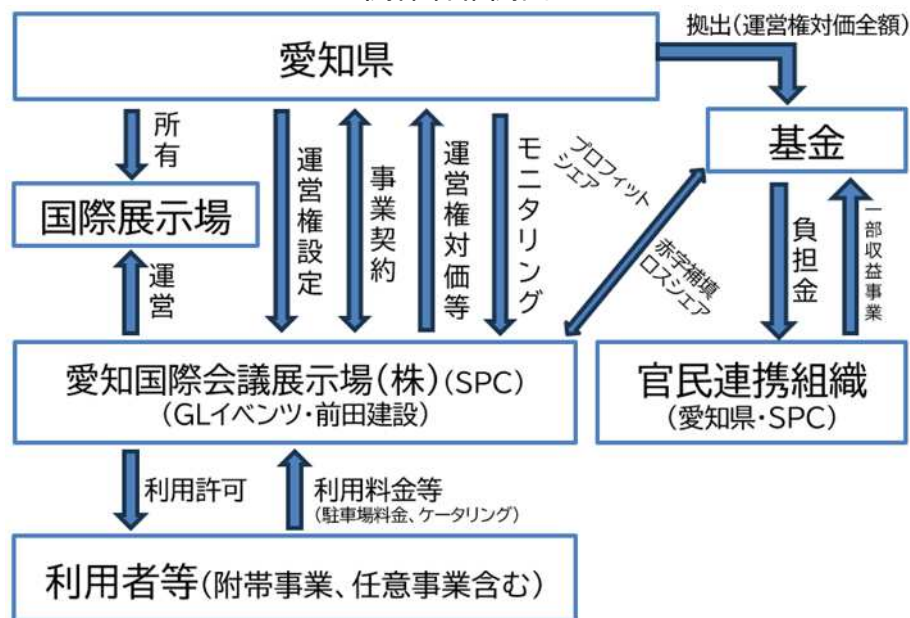
- 総敷地面積280,265㎡、展示ホールの総面積は60,000㎡。用途に合わせた大、中、小計18室の会議室やフードコート、売店などの施設も整備。
- 展示ホールA(10,000㎡)は無柱空間で天井高20m。防音対応が施され、コンサート会場としても利用可能。また、展示ホールB～F(各10,000㎡)は、連結して50,000㎡となり、一体で利用できる展示面積としては国内最大級。
- 屋外施設として、約36,000㎡の多目的利用地や3,447台分の駐車場が整備され、様々な催事に対応可能。
- 環境対策として、屋上のメガソーラー太陽光パネルや大型ファンなどの省エネ技術を導入しているほか、建物全体が平屋構造で、敷地内は段差のない完全なバリアフリー空間となっている。



3. コンセッション方式の導入

- 施設利用者、運営権者、愛知県の「三方良し」を実現するため、本施設の運営手法として「コンセッション方式」を採用。
- 愛知県は、公募型プロポーザル方式により、運営権者として「前田・GL eventsグループ」を選定し、当グループは特別目的会社（SPC）である「愛知国際会議展示場株式会社（AICEC）」を設立。
- 事業運営期間は、2019年8月30日から2035年3月31日までの約15年間。
- 県は、運営権対価を原資として「展示会産業振興基金」を設置し、官民連携で行う需要創造推進業務や、事業安定化支援、プロフィット・ロスシェアリング制度といったSPCへの財政支援等に活用している。

愛知県国際展示場コンセッション
関係者相関図



愛知県国際展示場コンセッションの事業構成

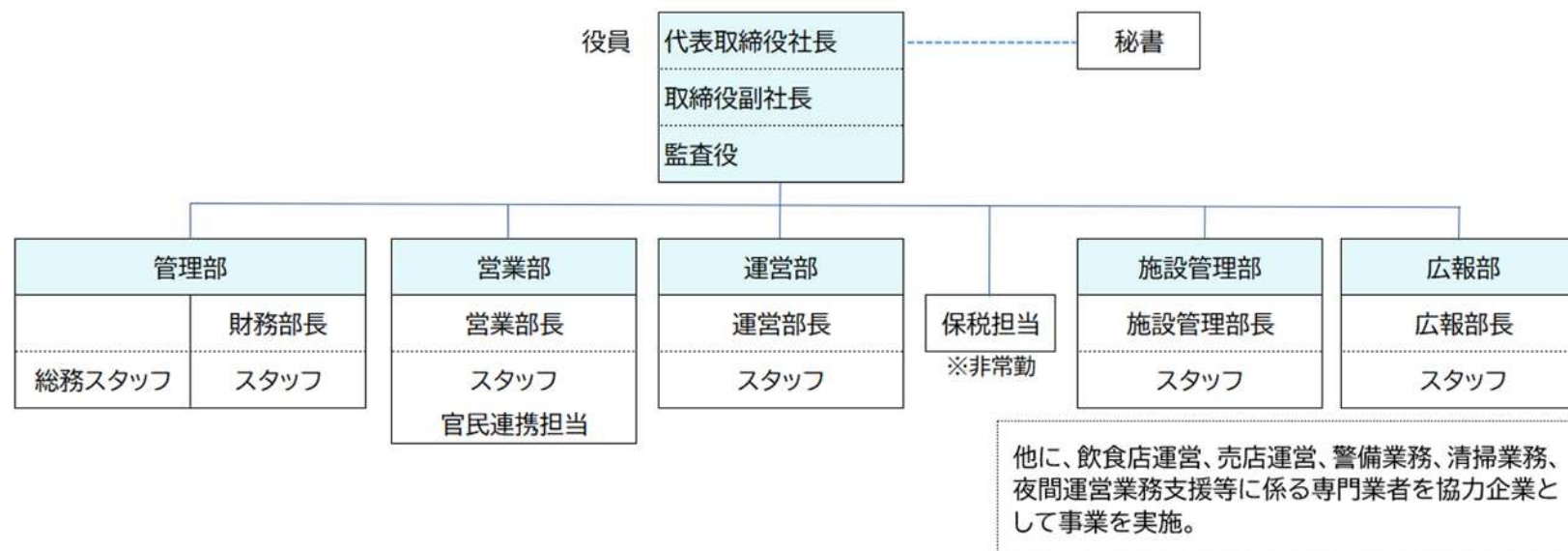
	①統括マネジメント業務			
	②施設維持管理運営業務	③附帯事業運営業務	④官民連携による需要創造推進業務	⑤任意事業
実施主体	AICEC	AICEC	官民連携組織(Aichi Sky Expo 活性化推進機構)	AICEC (構成企業、協力企業等も可)
基金による支援	・開業5年目までの事業安定化支援 ・6年目以降のプロフィット・ロス・シェアリング制度		官民連携組織運営費負担金	—

4. 各業務の分析・評価①

(1) 統括マネジメント業務

- 「統括マネジメント業務」として、「組織体制の構築」及び「総務・経理、セルフモニタリング」に係る業務を行っている。
- 事業実施にあたっては、SPC自身が責任を持って経営を行い、独自の価値を創造・提供していくことを県は求めており、自社においてマネージャー、スタッフ等を直接雇用する「有人SPC」として各業務の実績を積み重ね、中長期的な視点で人材育成と経営ノウハウの蓄積を図っている。
- 総務・経理業務、セルフモニタリング業務等も着実に実施。民間事業者の創意工夫による効率的かつ効果的な予算の執行・管理を行うことで、開業以来黒字経営を維持。
- 今後、施設の老朽化や外部環境の変化に適切に対応していくため、サービス水準の維持・向上に向けて、早期に必要な人員を確保・育成し、定着させることが一層求められる。

AICECの組織体制（2025年3月時点）



4. 各業務の分析・評価②

(2) 施設維持管理運営業務(マーケティング・プロモーション業務)

- HPや公式SNS等、複数チャネルを活用したマーケティング・プロモーションを実施。
- 世界最大の展示会産業団体であるUFI(国際見本市連盟)等への加盟や、海外で開催されるMICE関連の展示会への出展など、海外に向けたプロモーションも実施。
- 一般利用者や県外の催事主催者の中では未だ認知度が高いとは言えないとの声もあり、さらなる知名度向上のためのプロモーション強化が求められる。

専門誌への記事掲載



HPによる情報発信



公式SNSにおける「AICHI NEWS」の発信



4. 各業務の分析・評価③

(2) 施設維持管理運営業務(誘致・営業業務)

- 催事カテゴリごとに担当者を配置し、展示会を始め、学会・総会等のコンベンション、コンサート等のBtoCイベントなど、各種催事を積極的に誘致し、利用促進を図っている。
- AICECとして地元の商工会や経済団体に参画することで、効率的・積極的な情報収集やネットワークの構築にも努めている。
- コロナ流行の影響が大きかった2020年度～2022年度においては、密を避けた会場として、試験利用や屋外催事の開催が多くなったほか、東京オリンピックの開催による関東圏の会場不足に対応するなど、マーケットの変化に的確に対応し、大規模展示会等の開催実績も積み重ねた。
- 特に、BtoB展示会については、愛知県とも連携して、「自動車」、「ロボット」、「食品」、「カーボンニュートラル」、「農」、「畜産」等、愛知県の産業振興に資するテーマに係る催事を誘致するなど、官民連携による誘致活動も効果的に実施された。
- 結果として、コロナ禍の影響があった2020年度以降は想定より低い稼働で推移したが、多様な催事誘致により一定の稼働を確保し、2024年度は想定稼働率である25%を達成予定。

年度別稼働率等一覧

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
稼働率	24.0%	12.6%	16.5%	14.3%	15.7%
催事件数	83件	80件	97件	97件	90件
来場者数	675,799人	184,846人	320,693人	563,907人	664,236人

4. 各業務の分析・評価④

(2) 施設維持管理運営業務(予約管理・使用許可・料金徴収等業務)

- 施設の「利用規約」に基づき、「公の施設」として、公平性を担保して利用者の決定を行うとともに、統一的な予約管理システムの活用や割引制度の運用により、利用許可や利用料金徴収の業務を正確に実施。
- 業務にあたっては、キャンセル料の導入や利用許可申請の受付開始時期の見直しを行うなど、関係法令の範囲内で、円滑な施設運営や利用者の利便性向上に係る創意工夫もなされている。
- 今後は、戦略的な割引制度の運用や、催事に付随して利用される売店やフードコート、その他の設備等の売上向上により、他施設との競争力を維持しつつ、収益性も確保していくことが必要となる。

展示ホール利用料金(2025年3月時点)

展示ホール（1ホールあたり）*1*2					
項目	利用面積	利用時間			割引率
		0:00～12:00	12:00～24:00	0:00～24:00	
		利用料金（円）			
展示ホールA	8,000㎡超				
	10,000㎡以下	1,477,320	1,477,320	2,954,640	0%
	5,000㎡超				
	8,000㎡以下	1,181,856	1,181,856	2,363,712	20%
	5,000㎡以下	960,258	960,258	1,920,516	35%
展示ホールB～F	6,000㎡超				
	10,000㎡以下	1,238,640	1,238,640	2,477,280	0%
	3,000㎡超				
	6,000㎡以下	1,114,776	1,114,776	2,229,552	10%
	3,000㎡以下	743,184	743,184	1,486,368	40%

貸出備品利用料金(一例)(2025年3月時点)

項目	仕様	利用場所			利用料金(円)	単位
		ホール	会議室	その他		
椅子(1人掛用)	W490*D535*H775	○	○	○	300	1点/日
メモ台付き椅子(1人掛用)	W490*D535*H775 A3対応	○	○	○	300	1点/日
長机	W1800*H720	○	○	○	900	1点/日
ハンガーラック(ハンガー20本付き)	W1500*D500D*H1700	○	○	○	1,100	1点/日
丸テーブル(白布付き)1800サイズ	1800φ	○	○	○	3,300	1点/日
丸テーブル(白布付き)1200サイズ	1200φ	○	○	○	2,500	1点/日
ハイテーブル	600φ*H1000	○	○	○	1,600	1点/日
ハイチェア	W430*D510*H1020	○	○	○	1,100	1点/日
長椅子(ベンチ)	W2025*D675*H410	○	○	○	1,100	1点/日
レセプションチェア	W500*D540*H880	○	○	○	1,500	1点/日
演台	D600*H1066* W600/W900	○	○	○	1,100	1点/日
花台	W900*D450*H900	○	○	○	600	1点/日
変見鏡	W610*D450*H1700	○	○	○	1,200	1点/日
ホワイトボード	W1914*D550*H1800 両面仕様	○	○	○	1,500	1点/日
掲示板	W1831*D630*H1800 両面仕様	○	○	○	800	1点/日
パーティション H1450	W3010*D430*H1450	○	○	○	900	1点/日
パーティション H2100	W1800*D430*H2100	○	○	○	1,200	1点/日
案内板	W500*D280*H1352	○	○	○	700	1点/日

4. 各業務の分析・評価⑤

(2) 施設維持管理運営業務(催事開催支援業務)

- 催事ごとに個別の担当者を配置し、主催者のニーズに合わせたホール・会議室・備品の活用や設営、当日の来場者の動線、併催催事との調整、共用部分の利用方法など、安全かつ効果的に催事を開催するためのアドバイスやサポートを行っている。
- これまでに、BtoB展示会や大規模なBtoCイベント、国際会議など、多様な催事に対する支援実績を積み重ね、催事開催に係るノウハウを蓄積。
- 催事開催後には、主催者による「利用者満足度調査」を実施して業務改善に取り組んでおり、その成果として、きめ細かく臨機応変な支援体制について多くの主催者から高い評価を得ている。

ROBOT TECHNOLOGY JAPAN



FIELDSTYLE



技能五輪・アビリンピック



4. 各業務の分析・評価⑥

(2) 施設維持管理運営業務(施設維持管理業務)

- 「施設維持管理業務」として、建築物・設備・外構施設の保守管理、警備、衛生管理・清掃、総合案内等の業務を大きな問題なく安定的に実施しており、来場者にとって安全かつ快適な利用環境を整備している。
- 広大な敷地を持つ本施設の維持管理業務の内容は多岐にわたり、点検・保守等の実務に際しては、AICECによる公募プロポーザルで選定された専門業者への委託も行っている。委託事業者と連携して業務を実施することで、AICEC社内における施設維持管理ノウハウの蓄積を図っている。
- 警備や清掃、総合案内の業務にあたっては、事前に主催者と調整のうえ、催事の開催状況に応じて頻度や人員体制を変える等の工夫を行っており、効率的かつ効果的な業務の実施に努めている。

外構(植栽)



警備(中央管理室)



総合案内

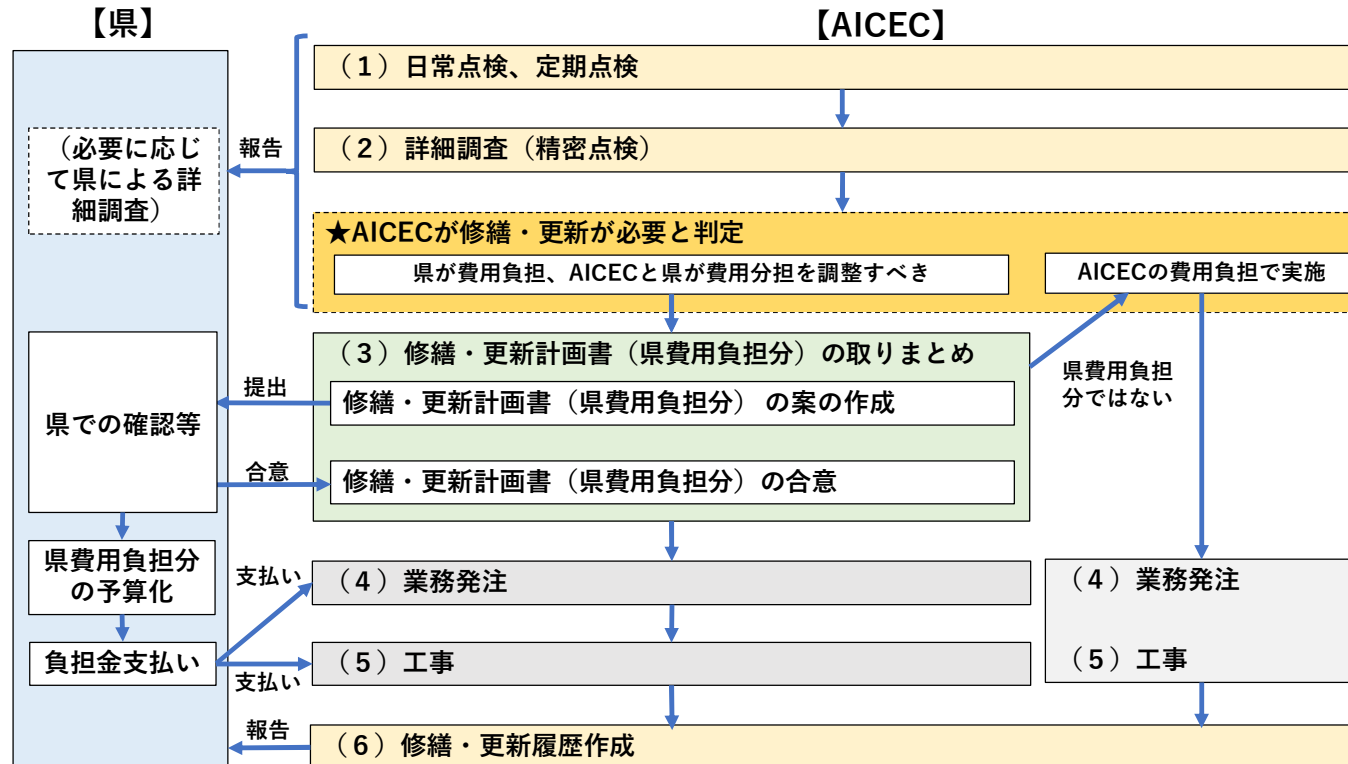


4. 各業務の分析・評価⑦

(2) 施設維持管理運営業務(修繕等業務)

- 施設の修繕は、「維持保全計画」、「中・長期修繕計画」及び日常点検等の結果を踏まえ、催事等に影響が出ないように、適切かつ効率的に実施されている。
- 「中・長期修繕計画」に基づき、主に建物基幹部分の機能維持は県、運営・運用の機能・環境の維持はAICECが費用を負担しており、県の費用負担分については、毎年度、県とAICECによる調整会議を開催し、次年度の箇所やスケジュールを決定。
- 今後、年数の経過や施設の使用頻度の増加に伴う設備等の劣化に対応できるよう、構成企業の知見を採り入れるなど、より一層の実施体制の充実が求められる。

中・長期修繕計画に基づく修繕業務のプロセス



4. 各業務の分析・評価⑧

(2) 施設維持管理運営業務(渋滞対策、防災・災害対策等)

- 大規模催事開催時には、中部国際空港や名鉄などの関係機関と交通対策会議を開催し、情報共有等の連携を図りながら、渋滞対策を行っている。
- 一方で、車での来場者が集中するような場合には、周辺道路まで渋滞が発生することもあり、主催者からもより一層の渋滞対策を求める声が上がっているため、引き続き、関係者との連携を強化するとともに、ハード、ソフト両面からの改善が求められる。
- 開業5年間は、幸いにも本施設での大規模災害は発生しなかったものの、震災や風水害等の発生時には大きな被害が発生する可能性があることから、引き続き、周辺施設や関係機関との連携を強化しながら、不断の防災・災害対策に取り組む必要がある。
- また、多様な催事の開催に伴う想定外のリスクへの対策として、社内で危機管理マニュアルを策定し、リスク評価部会の設置等により危機管理に係る体制を整備している。

混雑した駐車場の様子



防災備蓄品



4. 各業務の分析・評価⑨

(3) 附帯事業運営業務

- 附帯事業として、「駐車場運営」、「飲食・売店等利用者利便施設の運営」、「総合保税地域の機能を活用した展示会支援」を実施。
- 駐車場運営においては、障害者用駐車場や割引制度の導入、隣接する中部国際空港との料金体系共通化等により、来場者の利便性を確保し、着実に利用者数を増やしている。
- 利用者利便施設として、フードコートや売店、ビジネスセンター、コインロッカー等を設置。フードコートにおいては、地元食材を積極的に活用したメニューの提供や、提供時間短縮のため食券機の更新を行うなど、工夫した運営により利用者の利便性を向上させている。
- 保税機能を活用した催事の開催実績はまだ数少なく、さらなる活用が期待される。

フードコート



フードコートにおける提供メニュー(一例)



売店



ビジネスセンター



駐車場利用者数の推移

年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
利用者数 (人)	72,848	48,823	75,300	110,755	115,429

4. 各業務の分析・評価⑩

(4) 官民連携による需要創造推進業務

- 官民連携による需要創造を図るため、県とAICECで「Aichi Sky Expo活性化推進機構」を設立し、「県産品PRコーナー」の運営による地場産業のプロモーションや、本施設で開催される展示会等への補助制度、広告掲載スペースの整備・提供等による催事開催支援を行っている。
- また、展示会等企画・開催事業として、AICECの代表企業・GLイベントの主催による、愛知県の産業特性に合致した「ものづくり」の展示会「SMART MANUFACTURING SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE」の開催に向けた支援も行った。
- さらに、地域の経済団体、行政機関、交通関係事業者等による「Aichi Sky Expo需要創造推進会議」を立ち上げ、個別催事をターゲットとした支援体制について検討することで、地域で連携した催事の受入体制の充実を図っている。
- 今後も引き続き、広域的・国際的なマーケティング・プロモーション活動を推進し、さらなる新規催事の誘致・定着を図っていくことが求められている。

県産品PRコーナー



広告掲載スペースの整備・提供



SMART MANUFACTURING
SUMMIT BY GLOBAL INDUSTRIE



4. 各業務の実施状況・評価⑪

(5)任意事業

- 開業以来、AICEC自らの責任と費用負担により、太陽光発電による売電事業や、主催者向けの清掃・廃棄物処理、キッチンカーサービスの提供など、多様な任意事業を展開し、支援サービスの充実を図っている。
- 2021年度には、初めての自主開催催事として「JAPAN × FRANCE LIFESTYLE EXPO 2021 Hybrid Edition」を開催。さらに、大規模展示会の開催に合わせて、知多半島食材を中心とした地産地消のフレンチを来場者に提供する臨時レストラン「C'est Bon! CHITA」を企画・開催した。
- 今後は、デジタルサイネージや最先端の音響・照明技術といった最新鋭の技術を活用した事業の提案など、さらなるサービスの充実や収益力の向上が課題となっている。

キッチンカーサービスの提供



貸出用スマートフォン
充電器の設置



JAPAN × FRANCE LIFESTYLE EXPO



5. 施設利用者の意識調査①

(1) 施設利用者へのアンケート調査

- 2024年に開催された6件の催事※において、来場者及び出展者(延べ約1,500名)を対象に、施設に対する評価についてアンケート調査を実施した。
※内訳: BtoB展示会 2件、BtoCイベント 3件、コンサート 1件
- 「施設のきれいさ・清潔さ」について、施設が新しいこともあり、9割以上の回答者から肯定的な回答を得るなど高く評価されている。「館内の案内や経路のわかりやすさ」についても8割以上から高評価を得ており、施設整備及びAICECによる運営が適切に行われた結果と言える。
- また、「立地・交通アクセス」について、施設開業時には「名古屋からの距離が遠い」などの声も聞かれたが、今回の調査では、来場者・出展者ともに約7割から肯定的な回答を得た。
- 「飲食の充実度」、「売店の充実度」については、「良い」、「やや良い」の割合が6割程度と、他項目と比べて低評価となっている。飲食機能は施設利用者の満足度向上にとって重要な要素のひとつであるため、民間事業者のノウハウを活かした、より魅力的な利用者利便施設の運営が期待される。

来場者による評価まとめ

評価 (5段階)	評価の項目				
	立地・交通アクセス	施設のきれいさ ・清潔さ	館内の案内や 経路のわかりやすさ	飲食の充実度	売店の充実度
5 (良い)	40.7%	83.2%	63.7%	35.8%	39.9%
4 (やや良い)	29.7%	13.4%	21.7%	25.1%	25.8%
3 (どちらともいえない)	22.3%	2.5%	11.9%	31.8%	25.5%
2 (やや良い悪い)	6.2%	0.5%	2.3%	5.5%	7.3%
1 (悪い)	1.2%	0.4%	0.5%	1.7%	1.5%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

5. 施設利用者の意識調査②

(2) 催事主催者へのヒアリング調査

- 本施設での催事開催実績がある主催者13者※を対象として、施設に関する項目について5段階で評価を頂くとともに、具体的な評価理由等についてヒアリングを行った。
※内訳：BtoB展示会 4者、BtoCイベント 4者、コンサート 3者、企業イベント 1者、試験 1者
- 高評価を得た項目については引き続き高水準を維持するとともに、改善を求められた点については早急に検討を行うなど、今回の結果を今後の業務に反映させていく。

主催者による評価まとめ

(5…良い、4…やや良い、3…どちらともいえない、2…やや悪い、1…悪い)

	項目	平均
①	施設のきれいさ、清潔さについて	4.69
②	搬入・搬出、設営のしやすさについて	4.38
③	催事開催のためのサポート体制について	3.92
④	駐車場、多目的利用地の使いやすさについて	3.92
⑤	予約・申込等のしやすさ、対応について	3.69
⑥	展示ホールや会議室の諸室構成、配置について	3.54
⑦	館内の案内や経路のわかりやすさについて	3.38
⑧	ホール内の設備、備品等の充実度について	3.23
⑨	立地、交通アクセスについて	3.00
⑩	周辺環境・周辺施設の充実度について(ユニークベニユー等)	2.85
⑪	飲食(フードコート)や売店等の充実度について	2.69

主催者による評価理由・意見等

【評価できる点】

- ・ 施設が新しいことに加え、清掃が行き届き、気持ちよく使えている。
- ・ 搬入出口が大きく、ローディングエリアも広いため、搬入出がとてもしやすい。
- ・ 実際に利用すると、想像以上にアクセスが良かった。
- ・ 催事当日の急遽の備品用意や有事の対応など、AICECにとて臨機応変に対応いただいている。
- ・ (展示会において)県とAICECで連携した開催支援を受けた。他の地域、会場ではここまでのサポートはなかなかない。

【改善点】

- ・ 特定の時間にフードコートや売店の利用が集中し、特に大規模な催事の際には飲食の提供が足りなくなる。
- ・ 周辺の飲食店も閉まるのが早いため、夜間の食事場所の確保が困難。
- ・ 依然として来場者の中に心理的な距離(遠いというイメージ)がある。
- ・ 駅から会場までの案内がもっとあると良い。

6. マネジメントとガバナンス①

(1) マネジメント

- 発生するリスクに対して適切な主体により迅速に対応するため、あらかじめ官民の間のリスク分担を定めている。
- 特に、財政面における運営事業者のリスク低減を図るため、赤字補填やプロフィット・ロス・シェアリングといったリスク分担策を導入。さらに、リスク発生を防ぐために、県による定期的な財務状況の把握も実施。
- こうしたマネジメントの成果として、開業以降、コロナの影響による需要低迷期が続いたものの、営業損益は継続して黒字を計上している。

主なリスク分担（「愛知県国際展示場コンセッション実施方針」から抜粋）

リスクの種類	リスクの内容	分担	
		県	AICEC
住民対応リスク	施設の整備、運営に対する住民反対運動、訴訟、要望に関するもの	●	—
緊急事態リスク	空港等における緊急事態の発生に関するもの	—	●
施設損傷リスク	運営権者が管理上の注意義務を怠ったことによる火災・事故等による施設の損傷	—	●
	上記以外の原因による火災・事故等による施設の損傷	●	—

営業損益の状況（任意事業を除く）

単位：千円

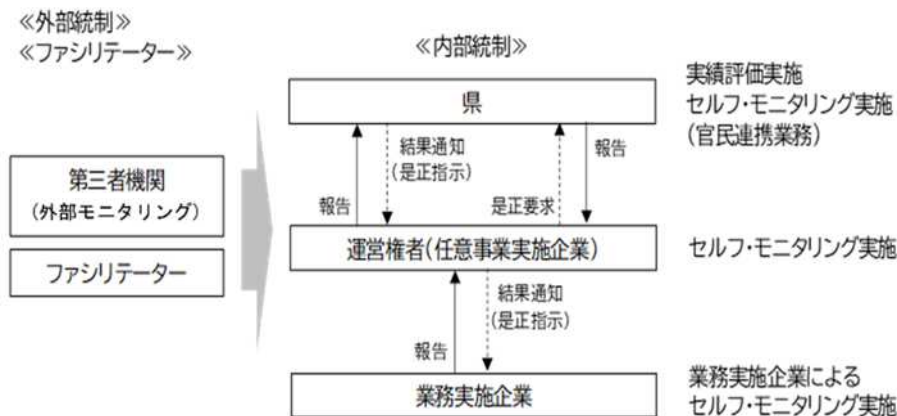
	2019年度 (8/30～)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
営業収益	777,527	949,286	934,544	837,474	780,989
営業費用	720,450	763,101	752,276	779,446	747,832
営業損益	57,077	186,185	182,268	58,028	33,157
【参考】ホール稼働率	24.0%	12.6%	16.5%	14.3%	15.7%

6. マネジメントとガバナンス②

(2) ガバナンス

- 長期にわたる運営権存続期間中において適切に業務を遂行していくため、内部統制(モニタリング)、外部統制(第三者機関)及びファシリテーターによるガバナンス体制を構築し、官民の連携により運用している。
- 内部統制(モニタリング)として、AICECが実施したセルフモニタリング結果を県において確認し、県から評価結果をフィードバックすることにより、ガバナンスを維持している。さらに、官民の公式なコミュニケーションの場として、複層的な会議体を設置。
- 外部統制としては、外部有識者による第三者機関から定期的に評価やアドバイスを受け、業務改善を図っている。

ガバナンスの体制



会議体の概要

会議体名	取り扱う主な議事	参加者	開催頻度
協議会	- 実施契約の変更等、事業全般に係る公的な協議 - 第三者機関構成員の選定、付託 - 緊急事態への対応 等	県・運営権者最高責任者	不定期 年一回以上
業務報告会	- 各事業における要求水準の充足状況及び課題の確認 - 運営権者の財務状況の確認 等	県・運営権者事業責任者	半期に一度程度
連絡会議	- 要求水準の充足状況の確認 - 業務遂行上の諸課題に対する情報共有、協議及び対応策の進捗状況の確認 - 緊急事態への対応 等	県・運営権者業務責任者	月に一度程度

7. 総括

➤ 事業開始以降の取組の成果と課題を総括し、今後の取組のあり方を取りまとめた。

- AICECによる運営開始から5年の取組を経て、新規に整備された大規模展示場として、創意工夫を重ねながら、基本的な業務は概ね適切に実施されている。
- 開業後すぐにコロナの流行による影響を多大に受けながらも、積極的な営業努力と催事運営ノウハウを積み重ねた結果、開業以来黒字経営が維持されている。
- 官民連携による取組も適切に進められており、施設の所有者である愛知県と、運営権者であるAICECは、モニタリングやリスク分担による適正な業務の確保と、官民連携組織による本施設の一層の需要創造に向けて協働している。
- こうした取組の成果として、2024年度には目標稼働率を達成予定で、「自動車」、「食品」、「カーボンニュートラル」、「農」などをテーマとした新規の展示会も立ち上げられている。今後も、アジア競技大会や技能五輪国際大会などの大規模催事の開催が予定されており、「国際交流拠点」としての役割を果たしていくことが期待されている。
- AICECにおいては、中長期的な視点を持った社内体制の整備・強化を行い、これまでの取組により誘致した催事の継続開催や、開催予定の催事の着実な成功、官民連携による新たな催事の企画・開催などにより、一層の利用促進を図っていくことが重要となる。
- このレビューを通して認識した成果と課題を踏まえ、残り10年間の運営権存続期間において、さらなる本施設の利用促進、新規展示会の誘致、ひいては地域経済の発展や産業振興が実現されるよう、今後も官民によるパートナーシップを大切にして、不断の取組を続けていく。